

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
2年次	国語	論理国語		必履修・ 必修 ・選択	2
科目の目標	<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。</p> <p>①知識・及び技能 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。</p> <p>②思考、判断、表現 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>③主体的に学習に取り組む態度 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>				
教科書 (出版社)	「論理国語」(大修館書店)	副教材 (出版社)	「文学国語セレクション」(東京書籍)		
留意点				開講 予定人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	文や文章の効果的な組み立てや接続について理解を深めている。
思考・判断・表現	「読むこと」において、内容や構成を踏まえ、論点を明確にして、要旨を把握している。「書くこと」において、自らの立場や論点を明確にして適切な根拠をそろえ、主張できる。
主体的に学習に取り組む態度	論理の本質をとらえ、積極的に学習に取り組もうとしている。

(2) 評価方法

観 点 評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
定期考査・小テスト	◎	◎	○
授業での活動	○	◎	◎
学習履歴	○	○	◎

3 履修上および学習上の注意

<ul style="list-style-type: none"> ・実用的な文章を読むことを心がけ、論理的文章に積極的に触れるようにしてください。
--

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	○オリエンテーション （使用教材、成績の付き方） （Chromebook の使い方）	1	
	○具体的・抽象的に書く 「ミロのヴィーナス」	書 5	【知】 比喩的な表現に注意しつつ、論の展開を捉えることができる。 【思】 筆者の主張について自分はどのように感じるか考えることができる。 【主】 的確に伝わるよう具体的に書いたり抽象的に書いたりしようとしている。
5	○資料から読み取る 「コミュニティから見た日本」	読 8	【知】 グラフと関連づけながら本文の内容を読みとることができる。 【思】 統計資料から読み取れることについて考える。 【主】 日本社会の特徴について理解を深めようとしている。
6	○自分なりに考える力を養う 「空っぽの瓶」	読 3	【知】 人称を巡る筆者の体験や考えを読みとることができる。 【思】 言葉と存在の関わりについて考えることができる。 【主】 筆者の主張を理解し、自分の考えを持つようとしている。
7	○立場を明確にして書く 「自己をモデル化する知能」	書読 6	【知】 主張と根拠を捉え、的確に要約することができる。 【思】 立場を明確にし、根拠を示しながら自分の意見を書くことができる。 【主】 自分の考えを述べるために、まず他者の意見を理解しようとしている。
8	○情報を集めて分類する 「方言コスプレ」現象	書 8	【知】 集めた情報を観点に応じて整理・分類することができる。 【思】 整理・分類した情報をもとに、自分の考えを書くことができる。 【主】 分類して気づいたことや考えたことをまとめようとしている。
9	【前期期末考査】	1	
10	○考え方を豊かにする 「こころ」	読 10	【知】 人間の関係性と心情を的確に捉えることができる。 【思】 人の心のありようについて考えを深めようとしている。 【主】 近代文学への興味関心をもって本文を読もうとしている。
11	○具体例の役割を理解する 「スキーマと記憶」	読 5	【知】 実験結果などの具体例の本文中での役割を理解し、主張を読みとることができる。 【思】 記憶や学習におけるスキーマの働きを理解し、ものの見方を広げようとしている。 【主】 認識や行動の違いは何から生まれるのか考えようとしている。
12	○学説を読みとる 「分かち合う社会」	読 7	【知】 学説を引きながら論述する文章を読み、主張を捉えることができる。 【思】 食習慣を切り口にして人類社会の成り立ちについて考えることができる。 【主】 積極的に学説を読み取り、筆者の主張への理解を深めようとしている。
1	○詩に親しむ 「永訣の朝」	読 5	【知】 表現された内容を読み取ることができる。 【思】 描かれた行動や言葉から「わたくし」の妹に対する思いを解釈しようとしている。 【主】 詩に親しみ、興味関心を持つようとしている。
2	【学年末考査】	1	
3	○調べたことをレポートにまとめる	書 10	【知】 目的を明確にして、適切な引用を行うことができる。 【思】 多様な方法で情報を収集し、効果的な構成を考えて書くことができる。 【主】 根拠を明確にしながら自分の考えを主張しようとしている。
		70	

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
2年次	国語	古典探究	-	※文学国語との選択	2
科目の目標	<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。(知識及び技能)</p> <p>(2)論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。(思考、判断、表現)</p> <p>(3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。(主体的に学習に取り組む態度)</p>				
教科書(出版社)	『古典探究 古文編』 『古典探究 漢文編』 (大修館書店)	副教材 (出版社)	<p>(1)『読んで見て覚える 重要古文単語315』 [三訂版] (桐原書店)</p> <p>(2)『体系古典文法』[九訂版] (数研出版) (デジタル版)</p> <p>(3)『漢文必携』(桐原書店)</p>		
留意点	大学等の受験で「古典」が必要な人は、必ず「古典探究」を選択してください。		開講 予定人数		

2 評価

(1) 評価の観点

観点	趣旨
知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めようとしている。
思考・判断・表現	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めようとしている。
主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。

(2) 評価方法

評価方法	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査・小テスト		◎	◎	○
授業での活動		○	○	◎

3 履修上および学習上の注意

<p>(1)文法書を使用するため、タブレットを必ず持参してください。</p> <p>(2)本文以外にも、読み比べのため様々な古典文学作品に触れる予定です。興味・関心をもって授業に臨むことを心掛けてください。</p>

4 年間指導計画（評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	①オリエンテーション	1	
5	・使用教材、評価方法説明 ②説話（古文） ・十訓抄 ③単元テスト ・読解、文法、文学史	10 1	② 【知】古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 【思】「読むこと」において、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に自分のものの見方・感じ方・考え方を深めている。 【主】説話文学に興味をもち、登場人物の言動から多様な価値観を読み取ろうとしている。
6	④故事（漢文）	10	④
7	・知音、画竜点睛 ⑤単元テスト ・読解、文法、文学史	1	【知】古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 【思】「読むこと」において、文章の種類を踏まえて構成や展開などを的確に捉えている。また、古典の作品や文章について内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。 【主】故事成語の内容や文化的背景に興味をもち、学習したことを普通の生活の中に生かそうとしている。
8	⑥随筆（古文）	10	⑥
9	・枕草子		【知】古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 【思】「読むこと」において、古典の作品や文章について内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。また、古典の作品や文章などに表れているものの見方・感じ方・考え方を踏まえ、人間・社会・自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。 【主】作品に興味をもち、自然の情景に対する作者の感覚や、作者の人物像をとらえようとしている。
10	⑦逸話（漢文）	10	⑦
11	・日本外史 ⑧前期期末考査	1	【知】古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 【思】「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的・意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開・表現の特色について評価している。また、古典の作品に関連のある事柄について様々な資料を調べ、その成果を発表し、報告書などにまとめている。 【主】日本漢文に興味をもち、作者のものの見方、考え方がどのように表現されているかを読みとろうとしている。
12	⑨物語（古文）	10	⑨
1	・源氏物語「若紫」 ⑩単元テスト ・読解、文法、文学史	1	【知】古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 【思】「読むこと」において、古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりしている。 【主】『源氏物語』に興味をもち、現代までの日本の文化文学に与えた影響を知ろうとしている。
2	⑪和歌 ・万葉集、古今集、新古今集 ⑫学年末考査	8 1	⑪⑬ 【知】詩文学の内容を的確に捉え、作品の文学的背景を理解している。 【思】作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈している。 【主】和歌・漢詩に興味をもち、作者やその時代の背景に関心をもち、自分なりの解釈を行おうとしている。
3	⑬漢詩 ・李白、杜甫、王維、杜牧	6	
		70	

※「古典探究」は「読むこと」の一領域

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
2年次	国語	文学国語	選択	※「古典探究」との選択	2
科目の目標	<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。</p> <p>①知識及び技能 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。</p> <p>②思考、判断、表現等 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>③主体的に学習に取り組む態度 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>				
教科書(出版社)	新編文学国語(大修館)	副教材(出版社)			
留意点	大学等の受験で「古典」が必要な人は、必ず「古典探究」を選択してください。		開講 予定人数		

2 評価

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めようとしている。
思考・判断・表現	深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げ深めようとしている。
主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養おうとしている。

(2) 評価方法

観点 評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
定期考査・小テスト	◎	◎	○
授業での活動・課題提出	○	◎	◎

3 履修上および学習上の注意

- ・読書をこころがけ、積極的に論理的文章・文学作品に触れるようにしてください。

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	○オリエンテーション	1	
	○明日をひらく 「そとみとなかみ」	6	【知】筆者のいう「外側」と「内側」を理解することができる。 【思】外側と内側の関係について考えることができる。 【主】「外側と内側」のように物事を対比してとらえ、認識を深めることができる。
5	○一言で心をつかむ	6	【知】読み手の共感が得られる言葉や表現を理解することができる。 【思】写真やイラストに合ったおもしろい言葉を考えることができる。 【主】読み手の共感が得られるような言葉や表現を工夫して書くことができる。
6	○小説を楽しむ1 「ナイン」	8	【知】情景描写の効果を考えながら読むことができる。 【思】場面設定の仕方を通して登場人物の心情を考えることができる。 【主】比喩表現に注目し他の比喩表現を調べ、理解することができる。
7	○古典の世界に親しむ1 「児の飴食ひたること」	6	【知】重要語句、文法等を理解することができる。 【思】話しのおもしろさと教訓をとらえることができる。 【主】作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えることができる。
8	○詩を味わう 「道程」「小景異情」「コスモス」	7	【知】詩の形式と表現技法について理解することができる。 【思】詩のさまざまな表現と、その効果について考えることができる。 【主】詩に表された作者の心情を読み味わうことができる。
9	【前期期末考査】	1	
10	○古典の世界に親しむ2 「月やあらぬ」	6	【知】重要語句、文法等を理解することができる。 【思】男が月を見て感じた心情を読み取ることができる。 【主】作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えることができる。
11	○小説を楽しむ2 「鞆」	6	【知】寓意とはなにか理解することができる。 【思】この話に込められた寓意を読み取り、考えを深めることができる。 【主】小説を読む楽しさを味わうことができる。
12	○エッセイを書いてみる 「身内ほど厄介なものはない」「柿」「ぼくのお母さん」	10	【知】様々な文章を読み、構成や表現の工夫を読み取ることができる。 【思】不特定の読み手を想定し、自分の思いを表現したエッセイを書くことができる。 【主】既存の作品も参考にしながら、構成や表現を工夫して書くことができる。
1	○古典の世界に親しむ3 「行く河の流れ」	5	【知】重要語句、文法等を理解することができる。 【思】作品に表れている作者の考え方をとらえることができる。 【主】作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えることができる。
2	【学年末考査】	1	
3	○恋のうたについて	7	【知】詩歌の形式や表現の特徴について理解を深めることができる。 【思】それぞれの作品に描かれている情景や心情を読み取ることができる。 【主】詩について調べてまとめ、発表することができる。

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
2年次	地理歴史	地理総合	-	必修・必修・選択	2
科目の 目標	<p>社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有意な形成者に必要な公民としての資質・能力を身に付ける。</p> <p>(1) 地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。「知識及び技能」</p> <p>(2) 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。「思考力、判断力、表現力等」</p> <p>(3) 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深める。「学びに向かう力、人間性等」</p>				
教科書 (出版社)	高等学校 新地理総合 (帝国書院) 標準高等地図 (帝国書院)	副教材 (出版社)	高等学校 新地理総合ノート (帝国書院) 最新地理図表GEO (第一学習社)		
留意点				開 講 予定人数	

2 評価の方法

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけている。
思考・判断・表現	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を考察しようとする。地理的な課題の解決に向けて構想しようとする。考察、構想したことを効果的に説明しようとする。
主体的に学習に取り組む態度	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする。

(2) 評価方法

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法			
定期考査・小テスト	◎	◎	○
ワークシート	◎	○	◎
学習観察	○	◎	◎

3 履修上および学習上の注意

--

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	第1部第1章 地球上の位置と時差 地図の役割と種類	4	①地図や地理情報システムの役割や有用性などについて理解している。 ②地図の目的や用途，内容，適切な活用の仕方などを多面的・多角的に考察し，表現している。 ③地図や地理情報システムについて，主体的に追究，解決しようとしている。
5	第1部第2章 現代世界の国家と領域 グローバル化する世界	4	①方位や時差，日本の位置と領域，国内や国家間の結び付きについて理解している。 ②世界的視野から見た日本の位置，国内や国家間の結び付きなどを多面的・多角的に考察し，表現している。 ③よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究，解決しようとしている。
6	第2部第1章 生活文化の多様性 世界の地形と人々の生活	26	①人々の生活文化が多様性をもつことや，地理的環境の変化によって変容することなどについて理解している。 ②世界の人々の生活文化について，多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し，表現している。 ③生活文化の多様性と国際理解について，よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究，解決しようとしている。
7	世界の気候と人々の生活		
8	世界の言語・宗教と人々の生活		
9	歴史的背景と人々の生活		
10	世界の産業と人々の生活		
11	第2部第2章 複雑に絡み合う地球的課題 地球環境問題 資源・エネルギー問題 人口問題 食糧問題 都市・居住問題	19	①世界各地でみられる地球環境問題，資源・エネルギー問題，人口・食料問題及び居住・都市問題などを基に，地球的課題の各地で共通する傾向性や課題相互の関連性などについて大観し理解している。 ②世界各地でみられる地球環境問題，資源・エネルギー問題，人口・食料問題及び居住・都市問題などの地球的課題について，現状や要因，解決の方向性などを多面的・多角的に考察し，表現している。 ③地球的課題と国際協力について，よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究，解決しようとしている。
1	第3部第1章 日本の自然環境 地震・津波と防災 火山災害と防災 気象災害と防災	13	①我が国をはじめ世界でみられる自然災害や生徒の生活圏でみられる自然災害を基に，自然災害の規模や頻度，地域性を踏まえた備えや対応の重要性などについて理解している。 ②地域性を踏まえた防災について，自然災害への備えや対応などを多面的・多角的に考察し，表現している。 ③自然環境と防災について，よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究，解決しようとしている。
2	自然災害への備え		
3	第3部第2章 生活圏の調査と地域の展望	4	①生活圏の調査を基に，地理的な課題の解決に向けた取り組みや探究する手法などについて理解している。 ②生活圏の地理的な課題について，主題を設定し，課題解決に求められる取り組みなどを多面的・多角的に考察，構想し，表現している。 ③生活圏の調査と地域の展望について，よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究，解決しようとしている。
			①＝知識・技能 ②＝思考・判断・表現 ③＝主体的に学習に取り組む態度

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
2年次	地理歴史	歴史総合	-	必修・必修・選択	2
科目の 目標	<p>社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。</p> <p>(1) 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする【知識及び技能】</p> <p>(2) 近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関係や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>(3) 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を粗野に、課題を主体的に追求、解決使用とする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。【学びに向かう力、人間性等】</p>				
教科書 (出版社)	歴史総合 近代から現代へ (山川出版社)	副教材 (出版社)	歴史総合ノート近代から現代へ (山川出版社)		
留意点				開講 予定人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。
思考・判断・表現	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けている。
主体的に学習に取り組む態度	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度や、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを身に付けている。

(2) 評価方法

観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法			
定期考査・小テスト	◎	○	○
ワークシート	◎	◎	○
学習観察	○	○	◎

3 履修上および学習上の注意

--

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	1節 歴史と私たち 世界とつながる旅行の歴史 ～身近なものから歴史を考えてみよう～	5	○諸資料を活用し、私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象が、日本や日本周辺の地域および世界の歴史とつながっていることを理解する。 ○日本や世界のさまざまな地域の人々の歴史について歴史が叙述されていることを理解する。 ○中学校の歴史的分野で学習した内容を基に、前近代の日本と世界のつながりについて振り返る。
5	2節 結びつく世界と日本の開国	7	18世紀のアジア諸国の経済が欧米諸国に与えた影響などに着目して、18世紀のアジア諸国における経済活動の特徴、アジア各地域間の関係、アジア諸国と欧米諸国との関係などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、18世紀のアジアの経済と社会を理解する。 産業革命の影響、中国の開港と日本の開国の背景とその影響などに着目して、アジア諸国と欧米諸国との関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、工業化と世界市場の形成を理解する。 18世紀の東アジア諸国がどのような関係を築き、どのような経済発展を遂げたのかについて理解する。
6	3節 国民国家と明治維新	10	国民国家の形成の背景や影響などに着目して、政治変革の特徴、国民国家の特徴や社会の変容などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、立憲制と国民国家の形成を理解する。 帝国主義政策の背景、帝国主義政策がアジア・アフリカに与えた影響などに着目して、帝国主義政策の特徴、列強間の関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解する。
7 8	4節 近代化と現代的な諸課題	10	植民地の人々がどのような支配を受けていたのかについて理解する。 20世紀初期、帝国主義に対して人々がどのような態度を示し、アジア諸国はどのような動きを見せたのかについて理解する。 自由・制限、平等・格差、開発・保全、統合・分化、対立・協調などの観点を基に主題を設定し、事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現することを通して、現代的な諸課題の形成に関わる近代化の歴史を理解する。
9	第2章 国際秩序の変化や大衆化と私たち 1節 国際秩序の変化や大衆化への問い 2節 第一次世界大戦と大衆社会	10	国際関係の緊密化、アメリカ合衆国とソヴィエト連邦の台頭、植民地の独立、大衆の政治的・経済的・社会的地位の変化、生活様式の変化などに関する資料を活用し、国際秩序の変化や大衆化に伴う生活や社会の変容について多面的・多角的に考察し、問いを表現する。 第一次世界大戦の推移と第一次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響、日本の参戦の背景と影響などに着目して、第一次世界大戦の性格と惨禍、日本とアジアおよび太平洋地域の関係や国際協調体制の特徴などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を理解する。 第一次世界大戦前後の社会の変化などに着目して、第一次世界大戦後の社会の変容と社会運動との関連などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、大衆社会の形成と社会運動の広がりを理解する。
10	3節 経済危機と第二次世界大戦	6	経済危機の背景と影響、国際秩序や政治体制の変化などに着目して、各国の世界恐慌への対応の特徴、国際協調体制の動揺の要因などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、国際協調体制の動揺を理解する。 第二次世界大戦の推移と第二次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響、第二次世界大戦後の国際秩序の形成が社会に及ぼした影響などに着目して、第二次世界大戦の性格と惨禍、第二次世界大戦下の社会状況や人々の生活、日本に対する占領政策と国際情勢との関係などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解する。
11 12	4節 国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題 1節 グローバル化への問い 2節 冷戦と世界経済	10	自由・制限、平等・格差、開発・保全、統合・分化、対立・協調などの観点を基に主題を設定し、事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現することを通して、現代的な諸課題の形成に関わる国際秩序の変化や大衆化の歴史を理解する。 生活と文化に関する写真等から、国際秩序の変化や大衆化の歴史を振り返り、理解を深める。 冷戦と国際関係、人と資本の移動、高度情報通信、食料と人口、資源・エネルギーと地球環境、感染症、多様な人々の共存などに関する資料を活用し、グローバル化に伴う生活や社会の変容について考察し、問いを表現する。
S1 2	3節 世界秩序の変容と日本	6	アジア諸地域の経済発展の背景、経済の自由化や技術革新の影響、資源・エネルギーと地球環境問題が世界経済に及ぼした影響などに着目して、市場経済のグローバル化の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、市場経済の変容と課題を理解する。 冷戦の変容と終結の背景、民主化や地域統合の背景と影響、地域紛争の拡散の背景と影響などに着目して、冷戦終結後の国際政治の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、冷戦終結後の国際政治の変容と課題を理解する。
3	4節 現代的な諸課題の形成と展望	6	科目のまとめとして、現代的な諸課題に関する主題を設定し、事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現することを通して、歴史的経緯を踏まえて、持続可能な社会に向けて、現代的な諸課題の展望を探究する。

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
2年次	数 学	数学Ⅱ	-	必履修・必修・選択	4
科目の 目 標	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。				
教科書 (出版社)	高等学校 数学Ⅱ (数研出版)	副教材 (出版社)	教科書傍用 4プロセス 数学Ⅱ (数研出版)		
留意点	特になし		開 講 予定人数	必修科目のため全員	

2 評価

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につけるようにする。
思考・判断・表現	数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。
主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

(2) 評価方法

観 点 評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
定期考査・単元テスト 小テスト	◎	◎	
ワークシート 授業中の発言・発表	○	◎	○
授業への取組姿勢 週末課題 長期休業中の課題	○	○	◎

3 履修上および学習上の注意

<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別クラス展開を行う。 ・「教科書傍用 4プロセス 数学Ⅱ」を、家庭学習（予習・復習）で活用する。 ・数学Ⅰ・Aの発展的な内容であるとともに、数学Ⅲ・Cへとつながる基礎となる。 ・数学Ⅰ・Aの既習事項を復習しておくことが必要である。
--

4 年間指導計画（評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	第1章 式と証明	16	【知】 公式を用いて式の展開や因数分解したり、多項式の除法や分数式の四則計算の方法について理解し、計算することができる。 【思】 計算の方法を既に学習した数や式の計算と関連付け多面的に考察したり、実数の性質や等式・不等式の性質などを基に、等式・不等式が成り立つことを論理的に考察し、証明することができる。 【主】 粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断しようとしている。
5	第2章 複素数と方程式	7	【知】 複素数の理解と複素数の四則計算や2次方程式の解の性質について理解することができる。 因数定理の意味を理解し、高次方程式を因数定理などにより解くことができる。 【思】 日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、方程式を問題解決に活用することができる。 【主】 粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断しようとしている。
6	【前期中間考査】	1	
	第2章 複素数と方程式	9	
7	第3章 図形と方程式	20	【知】 図形の方程式での表現や、条件から軌跡を求めること、不等式の表す領域を図示したり領域を不等式で表すことができる。 【思】 座標平面上の図形について2つの文字の関係に着目し、それについて方程式を用いて表現し、図形の性質や位置関係について考察することができる。 【主】 粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断しようとしている。
8			
9	【前期期末考査】	1	
	第3章 図形と方程式	8	
	第4章 三角関数	26	【知】 新しい角の概念の意味や三角関数の値の変化やグラフの特徴、三角関数の相互関係や加法定理・合成について理解している。 【思】 三角関数に関する様々な性質についての考察、三角関数の加法定理から新たな性質を導くこと、三角関数の式とグラフの関係について多面的に考察することができる。 【主】 粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断しようとしている。
10			
	第5章 指数関数と対数関数	6	【知】 指数の拡張と指数計算、指数関数の値の変化やグラフの特徴、および、対数の意味とその性質の理解、対数関数の値の変化やグラフの特徴について理解している。 【思】 指数と対数を相互に関連付けて考察することや、指数及び対数関数の式とグラフの関係について、多面的に考察することができる。 【主】 粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断しようとしている。
11	【後期中間考査】	1	
12	第5章 指数関数と対数関数	10	
1	第6章 微分法と積分法	26	【知】 微分係数や導関数の意味とその計算、導関数を用いて関数の増減・極値・グラフの概形を調べること、さらに不定積分や定積分の値を求めることができる。 【思】 関数とその導関数との関係についての考察、微分と積分の関係から、積分の考えを用いて直線や関数のグラフで囲まれた図形の面積を求める方法について考察することができる。 【主】 粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断しようとしている。
2	【後期期末考査】	1	
3	第6章 微分法と積分法	8	

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
2学年	理科	物理基礎		必履修	2
科目の 目標	<p>(1) 日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについて理解するとともに、科学的に探求するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 観察、実験などを行い、科学的に探求する力を養う。</p> <p>(3) 物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、科学的に探求しようとする態度を養う。</p>				
教科書 (出版社)	物理基礎 (数研出版)	副教材 (出版社)	リードα 物理基礎・物理 (数研出版)		
留意点				開講 予定人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについて理解することができた。 科学的に探求するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身につけた。
思考・判断・表現	物体の運動と様々なエネルギーについて、身につけた知識を用いて思考することができた。 観察、実験などを行い、科学的に探求する力を身につけた。
主体的に学習に取り組む態度	物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、科学的に探求しようとする態度を身につけた。

(2) 評価方法

観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法			
定期考査・小テスト	◎	◎	○
ワークシート	○	◎	◎
観察・実験	◎	◎	◎
学習観察	○	○	◎

3 履修上および学習上の注意

<ul style="list-style-type: none"> ・前期に集中して学びます。評定も前期で確定します。 ・2年次の選択A「身のまわりの力学」を必ず選択すること。

4 年間指導計画（評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	第1編 運動の表し方 ○運動の表し方 ・速度 ・加速度 ・落体の運動	12	【知】等速直線運動の式および $x-t$ 図、 $v-t$ 図を理解できた。速さと速度、移動距離と変位の違いを理解できた。加速度の定義や正負の意味を理解できた。等加速度直線運動を表す3つの式がどのようにして得られたかを理解し、その式やグラフを正しく運用することができた。 【思】理解できた原理・法則を用いて思考できた。 【主】物理的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探求しようとする態度を身に付けようとした。
5	○運動の法則 ・力とそのはたらき ・力のつりあい ・運動の法則	18	【知】力がベクトル量であることを認識し力の合成や分解ができた。注目する物体にはたらく力が指摘でき、つりあいの式、運動方程式を立てて考えることができた。 【思】理解できた原理・法則を用いて思考できた。 【主】物理的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探求しようとする態度を身に付けようとした。
6	・摩擦を受ける運動 ・液体や気体から受ける力 【前期中間考査】 ○仕事と力学的エネルギー ・仕事 ・運動エネルギー ・位置エネルギー ・力学的エネルギーの保存	14	【知】仕事、仕事率を計算して求めることができた。運動エネルギーが $1/2 \times m v^2$ であること、運動エネルギーの変化は物体にされた仕事に等しいことを理解できた。位置エネルギーを計算することができた。さまざまな物体の運動について、力学的エネルギー保存則を用いることができた。 【思】理解できた原理・法則を用いて思考できた。 【主】物理的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探求しようとする態度を身に付けようとした。
	第2編 熱 ○熱とエネルギー ・熱と物質の状態 ・熱と仕事	7	【知】温度、熱運動、熱量、比熱、熱容量などが正しく理解できた。熱量の保存について理解し、熱量保存の式を立てることができた。仕事と熱の関係や熱力学第一法則、熱機関と熱機関の効率について理解できた。 【思】理解できた原理・法則を用いて思考できた。 【主】物理的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探求しようとする態度を身に付けようとした。
7	第3編 波 ○波の性質 ・波と媒質の運動 ・波の伝わり方	6	【知】波の発生原理や基本事項を理解できた。縦波と横波の違いを理解し、縦波を横波の形で表現できた。定在波の生じるしくみ、波の重ねあわせの原理や自由端・固定端での波の反射について理解できた。 【思】理解できた原理・法則を用いて思考できた。 【主】物理的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探求しようとする態度を身に付けようとした。
8	○音 ・音の性質 ・発音体の振動と共振。共鳴 【前期期末考査】	5	【知】音の波としての性質を理解できた。弦や気柱の振動と音の高さの関係について理解できた。気柱の振動の際、管内に生じる定在波の腹は管口より外にできることを理解できた。 【思】理解できた原理・法則を用いて思考できた。 【主】物理的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探求しようとする態度を身に付けようとした。

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
9	第4編 電気 ○物質と電気 ・電気の性質 ・電流と電気抵抗 ・電気とエネルギー ○磁場と交流 ・電流と磁場 ・交流と電磁波 第5編 物理学と社会 ○エネルギーの利用 ・エネルギーの移り変わり ・エネルギーの資源と発電	4	【知】物体の帯電するしくみ、導体・不導体・半導体の違いについて理解できた。電流と電圧の基礎について理解できた。オームの法則、抵抗の接続、抵抗率の基礎について理解できた。ジュールの法則、電力量と電力の意味について理解できた。 【思】理解できた原理・法則を用いて思考できた。 【主】物理的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探求しようとする態度を身に付けようとした。
10			
11			
12			
1		2	【知】電流がつくる磁場の向きを判断することができた。電磁誘導の基礎、交流電圧の基本について理解できた。電磁波の振動数と波長の関係、身近に使われている電磁波の周波数について理解できた。 【思】理解できた原理・法則を用いて思考できた。 【主】物理的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探求しようとする態度を身に付けようとした。
2			
3		2	【知】エネルギーの種類や身近なさまざまな事象でどのようなエネルギー変換がなされているかを理解できた。エネルギー資源にはどのようなものがあるか把握し、それらの長所と短所を理解できた。 【思】理解できた原理・法則を用いて思考できた。 【主】物理的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探求しようとする態度を身に付けようとした。

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
2学年	理科	地学基礎		必履修	2
科目の 目 標	<p>①知識及び技能 地球内部から気象・宇宙に至るまで学習を深め、地球を体系としてとらえる。</p> <p>②思考、判断、表現 観察、実習などを行い科学的に探究する力を養う。</p> <p>③主体的に学習に取り組む態度 自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。</p>				
教科書 (出版社)	地学基礎 (実教出版)	副教材 (出版社)	ビジュアルプラス 地学基礎ノート (実教出版)		
留意点	事前に教科書をよく読み、基本事項を覚えた上で学習に臨むこと。			開 講 予定人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	地球内部から気象・宇宙に至るまで学習を深め、地球を体系としてとらえることができか。
思考・判断・表現	観察、実習などを行い科学的に探究する力を養えたか。
主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、科学に対する興味・関心を高められたか。

(2) 評価方法

評価方法	観点 知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
定期考査	◎	◎	◎
ワークシート	○	○	◎
学習観察	○	◎	○

5 履修上および学習上の注意

--

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	1章 地球の構成と運動	14	【知】地球の構造や地震、火山活動について理解している。 【思】地球の構造や地震、火山活動について科学的に考察し表現している。 【主】地球の構造や地震、火山活動について、見通しをもったり振り返ったりするなど科学的に探究しようとしている。
	1節 地球の構造		
5	2節 プレートの運動 3節 地震と火山		
6	2章 大気と海洋	18	【知】大気や海洋の構造、気象について理解している。 【思】大気や海洋の構造、気象について科学的に考察し表現している。 【主】大気や海洋の構造、気象について見通しをもったり振り返ったりするなど科学的に探究しようとしている。
	1節 大気と海洋の構造と運動		
	2節 大気の大循環 【前期中間考査】		
7	3節 海洋の構造と海水の運動		
8	4節 日本の四季の気象と気候 【前期期末考査】		
9	3章 宇宙、太陽系と地球の誕生	10	【知】宇宙の始まりから太陽系の惑星について理解している。 【思】宇宙の始まりから太陽系の惑星について科学的に考察し表現している。 【主】宇宙の始まりから太陽系の惑星について見通しをもったり振り返ったりするなど科学的に探究しようとしている。
	1節 宇宙の誕生		
10	2節 太陽の誕生		
11	3節 惑星の誕生と地球の成長		
	4章 古生物の変遷と地球環境の変化	17	【知】地球上に生物が出現して以降の生物の変遷や地球環境の変化について理解している。 【思】地球上に生物が出現して以降の生物の変遷や地球環境の変化について科学的に考察し表現している。 【主】地球上に生物が出現して以降の生物の変遷や地球環境の変化について見通しをもったり振り返ったりするなど科学的に探究しようとしている。
	1節 地層のつき方 【後期中間考査】		
12	2節 化石と地質時代の区分		
1	3節 古生物の変遷と地球環境		
2	5章 地球の環境	11	【知】日本列島特有の地質や気候、成り立ちについて理解している。 【思】日本列島特有の地質や気候、成り立ちについて科学的に考察している。 【主】日本列島特有の地質や気候、成り立ちについて見通しをもったり振り返ったりするなど科学的に探究しようとしている。
	1節 日本の自然環境 【後期期末考査】		
3	2節 地球環境の科学		

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
2学年	保健体育	体育		必履修・必修・選択	2
科目の目標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成する。				
教科書(出版社)	現代高等保健体育(大修館書店)	副教材(出版社)			
留意点				開講 予定人数	

2 評価の方法

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識及び技能	運動の合理的・計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身につけているか。
思考力・判断力・表現力等	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を身につけているか。
学びに向かう力・人間性等	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を持つとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を身につけているか。

(2) 評価方法

観 点	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
実技テスト・ゲーム	○	○	○
ワークシート	○	○	○
学習観察		○	○

3 履修上および学習上の注意

- ・評価の際には、2の(1)に記載の3観点を同等に取り扱うものとする。
- ・運動が苦手でも一生懸命取り組み、各種目の特性や自己の技能について探究し、発見した課題の解決に向けて考えること。
- ・運動が得意でも、仲間との体力や技能などの違いに配慮し、仲間全員が運動に親しめるよう、よりよい環境づくりに主体的に取り組むこと
- ・体調に応じて運動量を調整したり、仲間や相手の体力や技能の程度に配慮したり、用具や場の安全を確認するなどして、自他共に怪我のないように心掛けること。
- ・体育理論の授業においては保健の教科書を使用する。

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点（抜粋）
4	オリエンテーション	1	「 体づくり運動 」 【知】体を動かす楽しさや心地よさを味わい、継続的な運動の計画を立て、実生活に役立てることができる 【思】下記※1 参照 【学】下記※2 参照、
	1 「体づくり運動」	6	
	2 「体育理論」	3	「 体育理論 」 【知】運動やスポーツの効果的な学習の仕方について理解している 【思】課題を発見し、よりよい解決に向けて思考・判断するとともに、他者に伝えようとしている 【学】主体的に学習に取り組んでいる
5	3 「球技<ネット型>（バレーボール）」 「球技<ネット型>（ソフトテニス）」	9	「 器械運動（マット運動：集団） 」 【知】回転系や巧技系の基本的な技滑らかに安定して行うこと、発展技を行うこと、それらを構成し演技すること、ができる 【思】下記※1 参照 【学】下記※2 参照、よい演技を講えようとしている
6	4 「球技<ネット型>（ソフトテニス）」 「球技<ネット型>（バレーボール）」	9	「 球技<ゴール型> 」 【知】状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きによって、空間への侵入などから攻防をすることができる 【思】下記※1 参照 【学】下記※2 参照、フェアプレーを大切にしている
7			「 球技<ネット型> 」 【知】状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防をすることができる 【思】下記※1 参照 【学】下記※2 参照、フェアプレーを大切にしている
8	5 「球技<ネット型>（バドミントン）」 「球技<ネット型>サッカー +	9	「 球技<ネット型> 」 【知】状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防をすることができる 【思】下記※1 参照 【学】下記※2 参照、フェアプレーを大切にしている
9	「バレーボール型」ソフトボール」	5+4	「 球技<ネット型> 」 【知】状況に応じたボール操作と走塁での攻撃、安定したボール操作と状況に応じた守備などによって攻防をすることができる 【思】下記※1 参照 【学】下記※2 参照、フェアプレーを大切にしている
10	6 「武道（柔道）」 「球技<ゴール型>（バスケットボール）」	9	「 武道（柔道） 」 【知】相手の動きの変化に応じて、得意技や連絡技を用いて相手を崩して投げたり、抑えたり、返したりするなどの攻防をすることができる 【思】下記※1 参照 【学】下記※2 参照、伝統的な行動の仕方を大切にしている
11	7 「領域選択」 ・「球技<ゴール型>（バスケットボール）」 ・「器械運動（マット運動：集団）」	9	「 ダンス 」 【知】ダンスの多様な楽しさや喜びを味わい、その文化的背景と表現の仕方、体力の高め方などを理解するとともに、それぞれ特有の表現や踊りを身に付けて交流や発表をすることができる 【思】下記※1 参照 【学】下記※2 参照、互いに共感している
12	・「ダンス」		「 スキー 」 【知】応用的・発展的な技能を習得する楽しさ・喜びを味わうとともに、斜面に応じた実践的なスキー操作をすることができる 【思】下記※1 参照 【学】下記※2 参照、スキー場のルール・マナーを大切にしている
1	8 「体育理論」	3	
2	9 「スキー」	1 2	※1 生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や中間の課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて取り組むとともに、自己や中間の考えたことを他者に伝えることができる
3			※2 主体的に取り組んでいる、互いに助け合い高め合おうとしている、合意形成に貢献している、一人一人の違いに応じた動き・課題・挑戦を大切にしている、健康・安全を確保している

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
2学年	保健体育	保健		必履修・必修・選択	1
科目の目標	保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成する。				
教科書 (出版社)	現代高等保健体育（大修館書店）	副教材 (出版社)			
留意点				開講 予定人数	

2 評価の方法

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けているか。
思考力・判断力・ 表現力等	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を身に付けているか。
学びに向かう力・ 人間性等	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を身に付けているか。

(2) 評価方法

観 点 評価方法	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
定期考査・小テスト	○	○	
ワークシート	○	○	○
学習観察		○	○

3 履修上および学習上の注意

<ul style="list-style-type: none"> ・評価の際には、2の(1)に記載の3観点を同等に取り扱うものとする。 ・1単位科目のため欠課時数に留意すること。 ・授業で使用する教材は教科書のみであるため、教科担任から配布される教材の保管について留意すること。 ・教科書は1、2年次の保健のみならず、1～3年次体育の「体育理論」時にも使用するため、紛失しないように管理すること。
--

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点（抜粋）
4	オリエンテーション	1	「生涯の各段階における健康」 【知】生涯を通じる健康の保持増進や回復には、生涯の各段階における健康課題に応じた自己の健康管理及び環境づくりが関わっていることを理解している
	【生涯を通じる健康】		
	01「ライフステージと健康」	8	
	02「思春期と健康」		
5	03「性意識と性行動の選択」		【思】生涯を通じる健康における事象や情報などについて整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している
	04「妊娠・出産と健康」		
	05「避妊法と人工妊娠中絶」		【学】生涯の各段階の健康に関心を持ち、積極的に授業に参画している
			「労働と健康」
6			【知】労働災害の防止には、労働環境の変化に起因する傷害や職業病などを踏まえた適切な健康管理及び安全管理をする必要があることを理解している
	06「結婚生活と健康」	8	【思】働く人の健康の保持増進について、習得した知識を基に、生活の質の向上を図ることと関連付けて、課題解決の方法に応用している
	07「中高年期と健康」		
	08「働くことと健康」		【学】労働と健康の関係に関心を持ち、積極的に授業に参画している
7	09「労働災害と健康」		「環境と健康」
	10「健康的な職業生活」		【知】人間の生活や産業活動は健康に影響を及ぼすことがあること、それを防ぐためには汚染の防止及び改善の対策をとる必要があること、環境衛生活動はある基準に基づき行われていること、を理解している
8			【思】人間の生活や産業活動などによって引き起こされる自然環境汚染について整理し、疾病等のリスクを軽減するために、環境汚染の防止や改善の方策に応用している
9	【前期期末考査】	1	【学】環境と健康の関係に関心を持ち、積極的に授業に参画している
	【健康を支える環境づくり】		「食品と健康」
	01「大気汚染と健康」	6	【知】食品の安全性の確保は健康を保持増進する上で重要であること、食品衛生活動は食品の安全性を確保するための基準に基づき行われていること、を理解している
	02「水質汚濁、土壌汚染と健康」		
	03「環境と健康にかかわる対策」		
10	04「ごみの処理と上下水道の整備」		【思】食品の安全性と食品衛生に関わる活動について、習得した知識を自他の日常生活に適用して、健康被害の防止と健康を保持増進するための計画を立てることができる
			【学】食品と健康の関係に関心を持ち、積極的に授業に参画している
	05「食品の安全性」	3	「保健医療制度及び地域の保健医療機関」
11	06「食品衛生にかかわる活動」		【知】保健・医療制度や地域の保健所・保健センター・医療機関などを適切に活用する必要があること、疾病からの回復や悪化の防止には、医薬品を正しく使用することが有効であること、を理解している
	07「保健サービスとその活用」	4	【思】地域の保健・医療機関やスポーツ施設の活用の仕方について、関連した情報を整理し、生活の質の向上に向けた課題解決に応用している
	08「医療サービスとその活用」		
12	09「医薬品の制度とその活用」		【学】保健医療制度に関心を持ち、積極的に授業に参画している
			「様々な保健活動や社会的対策」
			【知】我が国や世界では、健康課題に対応して様々な保健活動や社会的対策などが行われていることを理解している
1			【思】身近な地域や世界にある健康課題について、習得した知識を基に現在必要とされていることを整理し、自他の健康を保持増進するための環境づくりに主体的に参加する態度を身に付けている
2	10「さまざまな保健活動や社会的対策」	3	【学】中高年期の健康について関心を持ち、積極的に授業に参画している
	11「健康に関する環境づくりと社会参加」		「健康に関する環境づくりと社会参加」
			【知】自他の健康を保持増進するには、ヘルスプロモーションの考え方を生かした健康に関する環境づくりに積極的に参加していくことが必要であること、そのためには適切な健康情報の活用が有効であること、を理解している
3	【後期期末考査】	1	【思】ヘルスプロモーションの考え方に基づいた、健康に関する環境づくりに積極的に参加していくために、適切な情報を選択・収集して、分析・評価し計画を立てることができる
			【学】健康に関する環境づくりに関心を持ち、積極的に授業に参画している

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
2学年	芸術	美術 I		必履修・必修・選択	2
科目の目標	<p>美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。</p> <p>(2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。</p>				
教科書 (出版社)	美術 1 (光村図書)	副教材 (出版社)	なし		
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・教材費として 4,000円程度を徴収する予定である。 ・絵具等で汚れる可能性があるため、汚れてもよい上着を準備してください。 			開講 予定人数	21人

2 評価

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 ・創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて表現方法を創意工夫し、表している。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し発想や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・美術や美術文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。

(2) 評価方法

観 点 評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
制作物、小テスト	○	○	○
ワークシート	○	○	○
学習観察	○	○	○

3 履修上および学習上の注意

--

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション （1年の流れ、成績について 教室の使用ルール） ・鉛筆デッサン 	2 10	<p>【知】 形や陰影などの造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。</p> <p>【技】 意図に応じて用具の特性を生かすとともに、デッサンの表現方法を追求している。</p> <p>【発】 モチーフをよく観察し、形態や陰影などの表現方法について考え、個性豊かで創造的な表現の構想を練っている。</p> <p>【鑑】 デッサンの美しさを感じ取り、作者の意図と表現の工夫について考え、見方や感じ方を深めている。</p> <p>【主】主体的にデッサンの鑑賞活動や表現の創造的な諸活動に取り組もうとしている。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・色彩の基本 ・油彩（静物） 	4 18	<p>【知】 油彩の造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解している。</p> <p>【技】 油彩の制作方法をふまえ、意図に応じて用具の特性を生かすとともに表現方法を追求している。</p> <p>【発】 モチーフをよく観察し、油彩の特徴を理解し、追求しながら構想している。</p> <p>【発】主題に応じて油彩の表現方法について考え、個性豊かで創造的な表現の構想を練っている。</p> <p>【鑑】 油彩の美しさを感じ取り、作者の意図と表現の工夫について考え、見方や感じ方を深めている。</p> <p>【主】主体的に油彩の表現の多様さを感じ取り、鑑賞活動や表現の創造的な諸活動に取り組もうとしている。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・立体 	16	<p>【知】 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。</p> <p>【技】 制作方法を踏まえ、意図に応じて用具の特性を生かすとともに表現方法を追求している。</p> <p>【発】 主題に応じて表現方法について考え、個性豊かで創造的な表現の構想を練っている。</p> <p>【鑑】 美しさを感じ取り、作者の意図と制作工程における工夫を感じ取り、見方や感じ方を深めている。</p> <p>【主】 主体的に制作工程における工夫などについて考え、作品の鑑賞活動に取り組もうとしている。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・デザイン 	18	<p>【知】 形や色、材料などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などをもとに、デザインを全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解している。</p> <p>【技】 意図に応じて材料や用具の特性を生かすとともに、表現を工夫し、目的や計画をもとに創造的にあらわしている。</p> <p>【発】 ものの形や色の特徴などから主題を生成し、形と色の組み合わせや構成などの効果について考え、創造的な表現の構想を練っている。</p> <p>【鑑】 デザインの目的や機能との調和の取れた洗練された美しさなどを感じ取り、形や色、構成の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。</p> <p>【主】 主体的にデザインの目的や機能との調和の取れた美しさなどを感じ取り、形や色、構成の工夫などについて考える鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・1年間まとめ 	2	

※単元の進捗状況により、単元の順序や内容変更の可能性があります。

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
2 学年	芸術（音楽）	音楽 I	-	必履修・必修・選択	2
科目の目標	<ul style="list-style-type: none"> 音楽の幅広い活動を通して、生徒が個性を生かしながら思いや意図をもって表現したり味わって鑑賞したりする力を育成し、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てる。 音や音楽が醸し出すよさや美しさなどを感じ取り、そこに価値を見いだせる感性を養う。 音や音楽を知覚・感受して、思考・判断し表現する音楽活動の過程を通して、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。 音や音楽と生活や社会との関わりについて考え、音環境への関心を高め、音楽の知的財産権を尊重する態度の形成を図る。 中学校音楽科の学習を踏まえ、楽曲固有のよさや美しさなどを味わうだけでなく、文化的・歴史的背景など広い視野で音楽を捉えて、我が国及び諸外国の音楽文化への理解を深める。 				
教科書（出版社）	教育出版 音楽 I Tutti+	副教材（出版社）	自作のプリント、楽譜など		
留意点				開講 予定人数	

2 評価の方法

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	<p>【知】様々な表現形態による歌唱表現の特徴について理解している。</p> <p>【技】姿勢や呼吸などの身体の使い方の技能、他者との調和を意識して歌う技能を身に付け、歌唱で表している。【知】曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり、音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりについて理解している。【知】曲想と楽器の音色や奏法との関わり、様々な表現形態による器楽表現の特徴について理解している。【技】曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能、他者との調和を意識して演奏する技能、表現形態の特徴を生かして演奏する技能を身に付け、器楽で表している。</p>
思考・判断・表現	<p>音色、リズム、旋律、テクスチャを知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて表現意図をもっている。音色、旋律、テクスチャ、構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、自分や社会にとっての音楽の意味や価値、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成などを知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、歌唱や器楽表現としてどのように表すかについて表現意図をもっている。</p>
主体的に学習に取り組む態度	<p>親しみやすい J-POP の歌の二部合唱、音楽を幅広く様々な視点から捉えようとすることに関心をもち、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。西洋音楽の源流を中世からルネッサンスの音楽の鑑賞と文化的・歴史的背景の学習で迎えることに関心をもち、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p> <p>器楽アンサンブルや合唱の発表、独唱のテストに関心をもち、主体的・協働的に歌唱や器楽の学習活動に取り組もうとしている。</p>

(2) 評価方法

観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査・小テスト	○		○
ワークシート	○	○	
学習観察	○	○	○

3 履修上および学習上の注意

※楽典、ギター、歌唱、器楽（リコーダーも含む）、鑑賞、など幅広く取り組みます。
 ※紙ファイル A4 版、五線ノート 8 段～12 段を用意してください。

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	ガイダンス、校歌、 カーロ・ミオ・ベン、 楽典（楽譜の基本的な知識学習）	6	【知】様々な表現形態による歌唱表現の特徴について理解している。 【技】姿勢や呼吸などの身体の使い方の技能、他者との調和を意識して歌う技能を身に付け、歌唱で表している。音色、リズム、旋律、テクスチャを知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて表現意図をもっている。
5	イタリア歌曲「カーロ・ミオ・ベン」 楽典基本問題集、確認テスト	8	【知】「カーロミオベン」の曲想と音楽の構造や歌詞との関わりについて理解している。 【技】曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、歌唱で表している。音色、リズム、速度、旋律、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて表現意図をもっている。
6	楽典基本問題集 ギター基礎知識 確認発表	6	【知】曲想と楽器の音色や奏法との関わり、様々な表現形態による器楽表現の特徴について理解している。【技】曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能、他者との調和を意識して演奏する技能、表現形態の特徴を生かして演奏する技能を身に付け、器楽で表している。
7	ギター音の出し方 確認発表	6	【思】音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように演奏するかについて表現意図をもっている。
8	ギターメロディーを弾くためのテクニク・アルペジオ 確認発表	4	ギター奏法を身に付けることや音楽表現を創意工夫しながらアンサンブル活動をすることに関心を持ち、主体的・協動的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。
9	変奏曲の魅力を探ろう —パガニーニが残した名変奏曲— 古の音楽に思いをはせよう —雅楽、悠久の響き—	4 4	【知】曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて理解している。音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。主題の変化や作品の特徴が音楽の構造とどのように関わっているかに関心を持ち、主体的・協動的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
10	リコーダーアンサンブルを楽しもう	6	【知】曲想と楽器の音色や奏法との関わり、様々な表現形態による器楽表現の特徴について理解している。【技】曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能、他者との調和を意識して演奏する技能、表現形態の特徴を生かして演奏する技能を身に付け、器楽で表している。 【思】音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように演奏するかについて表現意図をもっている。【思】リコーダーの奏法を身に付けることや音楽表現を創意工夫しながらアンサンブル活動をすることに関心を持ち、主体的・協動的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。
11	オーケストラの魅力を探ろう —二つの旋律から広がる音楽— 吹奏楽の魅力味わおう —鯨のモチーフが紡ぎ出す雄大なドラマ—	4 4	【知】曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて理解している。音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いているオーケストラの様々な楽器の音色や響き、またポレロのリズムに乗せた二つの旋律が展開されながらもたらず表現上の効果に関心を持ち、主体的・協動的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。【思】吹奏楽の様々な楽器の音色や響き、また繰り返し現れるモチーフの変化と曲想や表現上の効果との関わりに関心を持ち、主体的・協動的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

12	名曲プレゼンテーション —さまざまな時代のピアノ 曲を聴こう—物語と音楽との関わり に注目しよう —総合芸術における音楽の魅力—	4 4	【知】曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり、音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりについて理解している。音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠や音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。【思】冬季休業中に作成した紹介文を使ってミニ・コンサートを行い、時代や作曲者の違いによる音楽の特徴を感じ取りながら曲や演奏について根拠をもって批評することに関心を持ち、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
1	世界のさまざまな音楽の魅力Ⅰ —和楽器の音と世界の楽器の音—	2	【知】曲想と楽器の音色や奏法との関わり、音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わり、我が国や郷土の伝統音楽の種類とそれぞれの特徴について理解している。【技】曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能を身に付け、器楽で表している。音色、速度、旋律、テクスチャ、強弱を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠、音楽表現の共通性や固有性について考えて聴き、どのように演奏するかについて表現意図をもっている。【思】日本の楽器の奏法を学び、音色や奏法の特徴を感じ取ることで、諸民族の楽器と日本の楽器との比較を通して音楽表現や音楽文化の固有性、共通性を考えることに関心を持ち、主体的・協働的に器楽や鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
2	世界のさまざまな音楽の魅力Ⅰ —和楽器の音と世界の楽器の音—	4	【知】曲想と楽器の音色や奏法との関わり、音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わり、我が国や郷土の伝統音楽の種類とそれぞれの特徴について理解している。【技】曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能を身に付け、器楽で表している。音色、速度、旋律、テクスチャ、強弱を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠、音楽表現の共通性や固有性について考えて聴き、どのように演奏するかについて表現意図をもっている。【思】日本の楽器の奏法を学び、音色や奏法の特徴を感じ取ることで、諸民族の楽器と日本の楽器との比較を通して音楽表現や音楽文化の固有性、共通性を考えることに関心を持ち、主体的・協働的に器楽や鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
3	コンサートを開こう —音楽Ⅰのまとめとして—	4	【知】音楽Ⅰの1年間の学習における表現や鑑賞の「知識」に関する諸事項について理解している。【技】音楽Ⅰの1年間の学習における技能に関する諸事項を身に付け、歌唱や器楽、創作で表している。音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成などを知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、歌唱や器楽、創作表現としてどのように表すかについて表現意図をもっている。【思】1年間の音楽学習のまとめとしてコンサートを企画実施することや、音楽Ⅰの1年間の学習を経て自分自身の音楽に対する考え方がどのように変容したかを考えることに関心を持ち、主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
2年次	英語	英語コミュニケーションⅡ	-	必修・必修・選択	4
科目の目標	<p>外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、以下の5つの領域において言語活動及びこれら結びつけた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を養う。具体的な活動・領域は以下の通り。</p> <p>(1) 聞くこと ア 日常的及び社会的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、一定の支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図を把握することや概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができるようにする。</p> <p>(2) 読むこと ア 日常的及び社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、一定の支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図を把握することや概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができるようにする。</p> <p>(3) 話すこと [やり取り] ア 日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを詳しく話して伝え合うやり取りを続けることができるようにする。 イ 社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、一定の支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく話して伝え合うことができるようにする。</p> <p>(4) 話すこと [発表] ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく話して伝えることができるようにする。 イ 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく話して伝えることができるようにする。</p> <p>(5) 書くこと ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができるようにする。 イ 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができるようにする。</p>				
教科書 (出版社)	LANDMARK Fit English Communication II (啓林館)	副教材 (出版社)	LANDMARK Fit English II Workbook (啓林館)		
留意点				開講 予定人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観点	趣旨
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について聞くこと、読むことを通して、その内容を捉える技能を身に付けている。また、それらの話題などについて、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して伝える技能を身に付けている。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、必要な情報を聞き取ったり、読み取ったりすることで、話の展開や話し手の意図、概要、要点、詳細を捉えている。また、それらの話題などについて、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して話して詳しく伝えている。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、話し手、聞き手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

(2) 評価方法

評価方法	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査・小テスト リスニングテスト 等		◎	○	○
定期考査・ワークシート パフォーマンステスト 等		○	◎	◎
学習観察・提出物 授業や課題への取り組み 等		○	○	◎

3 履修上および学習上の注意

- 言語活動に取り組む態度を持ち、異国の文化を学んでください。
- この授業は習熟度別展開授業で実施されます。

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	〇オリエンテーション （使用教材や授業の進め方） Lesson for activities	1 6	(知) 自己紹介を英語でできる。 (思) 自己紹介で表現力を見せる。 (主) 相手が理解しやすいように自己紹介ができる。
	Lesson 1	12	
	Lesson 2	12	
5	Lesson 2	12	(知) 現在完了や助動詞を用いた文の用法を理解している。 (思) 自分の考えを相手が理解しやすく伝える。 (主) 自分の考えを相手に理解しやすく伝えようとしている。
6	【前期中間考査】 Lesson for Paragraph Writing 1 SDGs04 Lesson 3	1 4 3 12	(知) 分詞・形式目的語を用いた文の用法を理解している。 (思) 自分の考えを相手が理解しやすく伝える。 (主) 自分の考えを相手に理解しやすく伝えようとしている。
	Lesson 4	12	
	Lesson 4	12	
7	Lesson 4	12	(知) 複合関係代名詞や完了形の受動態を用いた文の用法を理解している。 (思) 自分の考えを相手が理解しやすく伝える。 (主) 自分の考えを相手に理解しやすく伝えようとしている。
8	Lesson 4	12	(知) 複合関係代名詞や完了形の受動態を用いた文の用法を理解している。 (思) 自分の考えを相手が理解しやすく伝える。 (主) 自分の考えを相手に理解しやすく伝えようとしている。
9	Lesson 4	12	
9	【前期期末考査】 Lesson for Paragraph Writing 2 SDGs05	1 4 3	
10	Lesson 5	12	(知) 分詞構文を用いた文の用法を理解している。 (思) 自分の考えを相手が理解しやすく伝える。 (主) 自分の考えを相手に理解しやすく伝えようとしている。
	Lesson 6	12	
	Lesson 6	12	
11	Lesson 6	12	(知) 前置詞+関係代名詞を用いた文の用法を理解している。 (思) 自分の考えを相手が理解しやすく伝える。 (主) 自分の考えを相手に理解しやすく伝えようとしている。
12	【後期中間考査】 Lesson for Paragraph Writing 3 SDGs06	1 4 3	(知) 前置詞+関係代名詞を用いた文の用法を理解している。 (思) 自分の考えを相手が理解しやすく伝える。 (主) 自分の考えを相手に理解しやすく伝えようとしている。
	Lesson 7	12	
	Lesson 7	12	
1	Lesson 7	12	(知) 分詞構文・強調構文を用いた文の用法を理解している。 (思) 自分の考えを相手が理解しやすく伝える。 (主) 自分の考えを相手に理解しやすく伝えようとしている。
2	Lesson 8	12	(知) 仮定法過去や仮定法過去完了を用いた文の用法を理解している。 (思) 自分の考えを相手が理解しやすく伝える。 (主) 自分の考えを相手に理解しやすく伝えようとしている。
2	Lesson 8	12	
2	Lesson 8	12	
3	【後期期末考査】 Optional Learning 1	1 6	(知) 仮定法過去や仮定法過去完了を用いた文の用法を理解している。 (思) 自分の考えを相手が理解しやすく伝える。 (主) 自分の考えを相手に理解しやすく伝えようとしている。
	Optional Learning 2	6	

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
2学年	理科	身のまわりの力学	選択 A	必履修・必修・ 選択	2
科目の目標	(1) 物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探求するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。 (2) 観察、実験などを行い、科学的に探求する力を養う。 (3) 物理的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探求しようとする態度を養う。				
教科書(出版社)	「物理基礎」で使用した教科書	副教材(出版社)	「物理基礎」で使用した問題集		
留意点				開講 予定人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・理解	物理学の基本的な概念や原理・法則を理解できた。 科学的に探求するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けた。
思考・判断・表現	物理学の基本的な概念や原理・法則を用いて思考できた。 観察、実験などを行い、科学的に探求する力を身に付けた。
主体的に学習に取り組む態度	物理的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探求しようとする態度を身に付けようとした。

(2) 評価方法

評価方法	観点 知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
定期考査・小テスト	◎	◎	○
ワークシート	○	◎	◎
観察・実験	◎	◎	◎
学習観察	○	○	◎

3 履修上および学習上の注意

<ul style="list-style-type: none"> ・後期に集中して学びます。後期のみで評価が確定します。 ・2年次の必修選択科目「物理基礎」を必ず選択すること。
--

4 年間指導計画（評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
10	平面上での運動		<p>【知】 水平投射、斜方投射、等速円運動、単振動、万有引力などの基本的な概念や原理・法則を理解できた。</p> <p>【思】 理解できた原理・法則を用いて思考できた。</p> <p>【主】 物理的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探求しようとする態度を身に付けようとした。</p>
	・水平投射、斜方投射	8	
・円運動、単振動	8		
11	・惑星の運動、万有引力	8	
	・問題演習	4	
12	剛体にはたらく力	5	
	・力のモーメント	5	
	・剛体のつり合い	4	
	・重心	4	
	・問題演習	4	
1	運動量と力積	8	
2	・運動量、力積	4	
	・運動量の保存	8	
3	・はねかえり係数	8	
	・問題演習	4	

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
2学年	理科	生物概論	A	必履修・必修・ 選択	2単位
科目の 目 標	様々な生命現象を支える物質の働きを分子レベルでとらえさせることで、生物体や生命現象の共通性や多様性に対する理解を深めるとともに、生物学を探究する能力や態度を育てる。				
教科書 (出版社)		副教材 (出版社)	二訂版 スクエア最新図説生物 neo (第一学習社) リード Light ノート生物 (数研出版)		
留意点				開 講 予定人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	・生物基礎で学んだ内容を基本として、より発展的な知識を身につけた。
思考・判断・表現	・生物基礎で学んだ内容を基本とし、より発展的な知識を使い、思考する力を身につけた。 ・実験や観察をとおして、科学的な思考を身につけた。
主体的に学習に取り組む態度	・生物基礎で学んだ内容を基本として、より発展的な知識を身につけようと主体的に取り組めた。

(2) 評価方法

観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法			
定期考査・小テスト	◎	◎	○
ワークシート	○	◎	◎
学習観察			◎

3 履修上および学習上の注意

<ul style="list-style-type: none"> ・「生物」の大学入学共通テスト受験を目指している生徒向けの授業です。 ・理系の大学および看護師、理学療法士など医療系の大学・専門学校への進学を考えている生徒向けの授業です。 <p>科目選択については、理科の教科担任に相談してください。</p>
--

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	(1) 生物の多様性と生態系 ア 植生の多様性と分布	6	○植生やバイオームを通じ、生物多様性について理解する。また、生態系について理解し、生態系保全の意義や重要性を考察できる。
5	イ 生態系とその保全	6	
6	(2) 生物の進化 ア 生命の起源と生物の進化	6	○生物の起源や進化、遺伝子の変化について理解する。また、系統について学習し、生命の連続性を理解する。
7	イ 遺伝子の変化と多様性	6	
8	ウ 進化のしくみ	6	
9	エ 生物の系統と進化	6	
10	(3) 細胞と分子 ア 生体物質と細胞	8	
11	イ 生命現象とタンパク質	8	○細胞の構造や生命現象を支えている物質、特にタンパク質について理解する。
12	(4) 代謝 ア 代謝とエネルギー	6	○呼吸や光合成における各過程の反応を分子レベルでとらえ、生物の共通性や多様性、生態系との関連について理解する。
1	イ 呼吸と発酵	6	
2	ウ 光合成	6	
3	知識の確認・問題演習		

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
2年次	公民	政治・経済	A	必履修・必修・ 選択	2
科目の目標	<p>社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次の通り育成することを目指す。</p> <p>(1) 社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養う。</p> <p>(3) よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。</p>				
教科書(出版社)	政治・経済(東京書籍)	副教材(出版社)	最新図説 政経(浜島書店)		
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・2年次で本科目を履修したら3年次に本科目を選択できない。 ・四年制大学進学希望者は履修が望ましい 			開講 予定人数	特になし

2 評価の方法

(1) 評価の観点

観点	趣旨
知識・技能	現代の諸課題の解決に向けて探究する手掛かりとなる概念や理論などについて理解しているとともに、諸資料から社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。
思考・判断・表現	国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や概念・理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し説明しているとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想・議論を行って公正に判断し合意形成や社会参画に向かう力を身に付けている。
主体的に学習に取り組む態度	国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしているとともに、積極的な役割を果たそうとしている。

(2) 評価方法

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法			
定期考査・単元テスト	○	○	
振り返りシート			○
休業等課題	○	○	
グループ/ペアワーク(ワークシート)	○	○	○

3 履修上および学習上の注意

よりよい社会を形成するためには、過去から現在の諸課題を理解するとともに、社会とそれを構成する人間について多面的・多角的に思いを巡らせることが必要です。また、諸課題の解決のためには、合意形成が欠かせず、自分の考えと他者の考えの違いを踏まえて適切に表現する技能も必要です。まず、世の中に対して興味を持ってください。ネットニュースでも新聞でもTVでもかまいません。世の中を知ることが、人を知ることであり、社会をつくる基礎力です。

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

…知識・技能 …思考・判断・表現 …主体的に学習に取り組む態度

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	1 民主政治の基本原則	7	【国の政治制度はどのようにつくられているのだろうか】 意思決定としての政治の在り方、法概念、自然権と社会契約、人権の広がり、各国の政治制度の違いを理解しまとめることができる。 意思決定手段としての政治の在り方について考えることができる。 政治課題について解決しようとするすることができる。
5	2 日本国憲法の基本原則	6	【憲法と暮らしの関わりはどのようなものだろうか】 憲法制定過程、三大基本原則、改憲論議について理解しまとめることができる。 憲法制定の過程や改憲論議等の諸課題について考えをまとめ表現できる。 憲法の課題と生活課題を結びつけようとするすることができる。
6	3 日本の政治機構	7	【日本の国家・地方運営の課題は何だろうか】 三権機関と地方自治について理解しまとめることができる。 三権機関と地方自治について課題と解決策を考え表現できる。 政治課題について自分事と捉えようとするすることができる。
7	4 現代政治の特質と課題	8	【私たちは政治とどのように関わることができるだろうか】 行政機能の拡大、選挙制度、世論形成について理解しまとめることができる。 行政や民主主義制度の課題について考えをまとめ表現できる。 民主主義における投票の意義を考えようとするすることができる。
8			
9	5 国際政治のしくみと日本	7	【国際社会で日本が果たす役割はなんだろうか】 国際連合、冷戦と影響、日本の領土問題について理解する。 国際社会における日本の役割を考えることができる。 国際社会で自分が果たす役割を考えようとするすることができる。
10	6 現代経済のしくみ	22	【経済とわれわれの暮らしはどう関わるだろうか】 マクロ経済的概念（トレードオフ、国際分業、市場の役割、物価と景気変動、為替、金融と財政など）について理解することができる。 マクロ経済政策と政治政策の関連性を考えることができる。 諸概念を経済行動と結びつけようとするすることができる。
11			
12	7 日本経済の発展と現状	5	【日本経済の課題は何だろうか】 戦後の日本経済史と現在の経済政策を理解し現状や課題をまとめることができる。 現在の経済政策が経済史との関連性があることを考えることができる。 日本経済の現状と課題について考えようとするすることができる。
1			
2	8 福祉社会と日本経済の課題	8	【幸せな暮らしのために必要なことは何だろうか】 労働問題、社会保障、中小企業、環境行政、消費者問題、農業政策について理解することができる。 諸政策が暮らしにもたらす影響を考え、安心した生活とは何か意見をもち表現することができる。 暮らしと行政の関わりを考え行動しようとする態度をもち続けようとするすることができる。
3			

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
2学年	理科	化学概論	B	必履修・必修・ 選択	2
科目の 目 標	人間生活に欠かすことのできない「物質」。その物質による現象や、物質の性質・利用法、化学反応とエネルギー・電荷との関係についての法則に対する理解を深めるとともに、化学を探究する能力や態度を育成する。				
教科書 (出版社)	化学基礎（数研出版） ※1年次「化学基礎」のものを使用	副教材 (出版社)	リード Light 化学基礎（数研出版） 改訂版フォトサイエンス化学図録（数研出版）		
留意点				開 講 予定人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	・化学的な事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察・実験などに関する基本的な技能を身に付けた。
思考・判断・表現	・化学的な事物・現象を観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に着けた。
主体的に学習に取り組む態度	・日常生活や社会の化学的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に着けた。

(2) 評価方法

評価方法	観点 知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
定期考査・小テスト	◎	○	
ワークシート	○	◎	○
学習観察		○	◎

3 履修上および学習上の注意

<ul style="list-style-type: none"> ・「化学概論」は、「化学基礎」での知識をさらに深めていく科目です。また、3年次の選択科目である「化学」へ繋がる科目です。 ・3年次の選択科目である「化学」を選択予定者は、「化学概論」を履修することが望ましいです
--

4 年間指導計画（評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	◆化学基礎の復習	2	【この単元は化学基礎の教科書を使用】
5	物質の変化 (1) 酸化還元反応 1. 酸化と還元 2. 酸化剤と還元剤 3. 金属の酸化還元反応 4. 酸化還元反応の利用	13	【知】酸化還元反応についての基本的概念や原理・法則を理解しているとともに、日常生活や社会に関わる酸化還元反応を観察するなどの技能を身に付けている。 【思】酸化還元反応について、観察、実験などを通して探究し、物質の変化における規則性や関係性を見いだして表現している。 【主】日常生活での酸化還元反応に主体的に関わり、見通しをもったり、振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
	【前期中間考査】	1	【以下は化学図録を使用】
	第2章 電池と電気分解 1 電池 2 電気分解	13	【知】電池電気分解における酸化還元反応についての基本的概念や原理・法則を理解しているとともに、日常生活や社会に関わる電池電気分解を観察するなどの技能を身に付けている。 【思】電池電気分解について、観察、実験などを通して探究し、物質の変化における規則性や関係性を見いだして表現している。 【主】日常生活での電池電気分解に主体的に関わり、見通しをもったり、振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
6	【前期期末考査】	1	
7	第3編 無機物質 第1章 非金属元素 1 元素の分類と周期表 2 水素・貴ガス元素 3 ハロゲン元素 4 酸素・硫黄 5 窒素・リン	10	【知】無機物質についての基本的概念や原理・法則を理解しているとともに、無機物質に関する技能を身に付けている。 【思】無機物質について、観察、実験などを通して探究し、無機物質における規則性や関係性を見いだして表現している。 【主】無機物質に主体的に関わり、見通しをもったり、振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
8	6 炭素・ケイ素		
9	第2章 金属元素 (I) -典型元素- 1 アルカリ金属元素 2 アルカリ土類金属元素 3 アルミニウム・スズ・鉛	6	
10	【後期中間考査】	1	
11	第3章 金属元素 (II) -遷移元素- 1 遷移元素の特徴 2 鉄3 銅4 銀・金5 亜鉛 6 クロム・マンガン 7 その他の遷移金属	8	
12	8 金属イオンの分離・確認		
1	第1編 物質の状態 第1章 固体の構造 1 結晶とアモルファス 2 金属結晶 3 イオン結晶 4 分子間力と分子結晶 5 共有結合の結晶	10	【知】結晶や化学結合についての基本的概念や原理・法則を理解しているとともに、無機物質に関する技能を身に付けている。 【思】結晶や化学結合について、観察、実験などを通して探究し、結晶や化学結合における規則性や関係性を見いだして表現している。 【主】結晶や化学結合に主体的に関わり、見通しをもったり、振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
2	【後期期末考査】	1	
3	振り返り演習	4	

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
2年次	数 学	実践数学	B	必履修・必修・ 選択	2
科目の 目 標	数学Ⅰ及び数学Aにおいて既習事項の基本を確認した後、標準的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学的な見方や考え方を考察し、それらを活用できる態度を育成する。				
教科書 (出版社)	なし	副教材 (出版社)	フォローノート数学Ⅰ+A 傍用型(数研出版)		
留意点	数学Ⅰ・Aの復習を行うことが必要です。			開 講 予定人数	40人

2 評価

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能や推論の方法を身につけている。
思考・判断・表現	事象を数学的に考察し表現したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を身につけている。
主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度を身につけている。

(2) 評価方法

観 点 評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
定期考査・単元テスト 小テスト	◎	◎	
ワークシート 授業中の発言・発表	○	◎	○
授業への取組姿勢 週末課題 長期休業中の課題	○	○	◎

3 履修上および学習上の注意

<ul style="list-style-type: none"> 4年制大学の看護学科、高等看護学校、医療系専門学校の受験を念頭に置き、数学Ⅰ・Aの理解を深める。
--

4 年間指導計画（評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	1 数と式	20	<p>【知】既習事項を再確認し、数と式や論理と集合について、理解することができる。</p> <p>【思】問題解決の際に、既に学習した計算の方法と関連付けて、式を多面的に捉えたり、目的に応じて適切に変形することができる。</p> <p>【主】粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断しようとしている。</p>
5	2 集合と命題	5	
6	【前期中間考査】	1	
7	3 2次関数	22	<p>【知】既習事項を再確認し、2次関数について理解することができる。</p> <p>【思】問題解決の際に、既に学習した計算の方法と関連付けて、式を多面的に捉えたり、目的に応じて適切に変形することができる。</p> <p>【主】粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断しようとしている。</p>
8			
9	【前期期末考査】	1	
10	4 図形と計量	20	<p>【知】既習事項を再確認し、三角比の意味や三角比の相互関係について、理解することができる。</p> <p>【思】図形の構成要素間の関係について、三角比を用いて表現することができる。</p> <p>【主】粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断しようとしている。</p>
11	5 データの分析	5	
	【後期中間考査】	1	
12	6 場合の数と確率	20	<p>【知】既習事項を再確認し、順列、組合せ及び確率の意味を理解することができる。</p> <p>【思】順列、組合せ及び確率に対する直観力・洞察力を養い、論理的に考察し表現することができる。</p> <p>【主】粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断しようとしている。</p>
1			
2	7 図形の性質	9	
3	【後期期末考査】	1	<p>【主】粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断しようとしている。</p>

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
2年次	国語	古典講読	B	必履修・必修・ 選択	2
科目の 目標	<p>より幅広いジャンルの作品を通して、古典の読解力を高めるために言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。(知識及び技能)</p> <p>(2)論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。(思考、判断、表現)</p> <p>(3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。(主体的に学習に取り組む態度)</p>				
教科書 (出版社)	<ul style="list-style-type: none"> ・新版 文章で理解する 助動詞マスターワーク ・古典文法習得のためのまぎらわしい語の識別マスターノート ・三訂版よむナビ 漢文 基礎編 	副教材 (出版社)			
留意点				開講 予定人数	20人程度

2 評価

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めようとしている。
思考・判断・表現	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしようとしている。
主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養おうとしている。

(2) 評価方法

観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法			
定期考査・小テスト	◎	◎	○
ワークシート	○	○	◎
学習観察	○	○	○

3 履修上および学習上の注意

<p>(1)必修の古典探求を文法を中心に扱った内容。</p> <p>(2)本文以外にも、読み比べのため様々な古典文学作品に触れる予定です。興味・関心をもって授業に臨むことを心掛けてください。</p> <p>(3)タブレットを持参してください。また、1年次に購入した文法書があると便利です。</p>
--

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	1 オリエンテーション ・使用教材、評価方法説明	1	1 ～ ⑦
5	2 ～ ⑦（古文） ・更科日記「宮仕え」 ・十訓抄「笛吹き顕宗」 ・伊勢物語「思うかいのない夫婦仲」 ・大和物語「壬生忠岑」 ・古今著聞集「不動明王を描いた入道のこと」「弓の名手」	10	【知】古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 【思】「読むこと」において、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に自分のものの見方・感じ方・考え方を深めている。
6	⑧単元テスト ・読解、文法、文学史	1	【主】文学に興味をもち、登場人物の言動から多様な価値観を読み取ろうとしている。
7	⑨ ～ ⑬（漢文） ・呂氏春秋「室家を為る」 ・幽明録「窮地の彭娥」 ・蒙求「不遇の時代の韓信」 ・後漢書「母の料理」 ・宋史「書の指導」	10	⑨ ～ ⑬ 【知】古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 【思】「読むこと」において、文章の種類を踏まえて構成や展開などを的確に捉えている。また、古典の作品や文章について内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。
8	⑭単元テスト ・読解、文法、文学史	1	【主】故事成語の内容や文化的背景に興味をもち、学習したことを普段の生活の中に生かそうとしている。
9	⑮ ～ ⑱（古文） ・宇治拾遺物語「猿沢の池の竜」 ・古今著聞集「北叟が馬」 ・徒然草「双六の上手な人」 ・枕草子「説教の講師は」	8	⑮ ～ ⑱ 【知】古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。
10	⑲単元テスト ・読解、文法、文学史	1	【思】「読むこと」において、古典の作品や文章について内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。また、古典の作品や文章などに表れているものの見方・感じ方・考え方を踏まえ、人間・社会・自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。
11	⑳ ～ ㉔（漢文） ・烈女伝「桑を摘む娘」 ・世説新語「山巨源の人となり」 ・論語「文武の道」 ・説苑「燭雛の罪」	10	【主】作品に興味をもち、自然の情景に対する作者の感覚や、作者の人物像をとらえようとしている。
12	㉕単元テスト ・読解、文法、文学史	1	⑳ ～ ㉔ 【知】古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。
1	㉖ ～ ㉙（古文） ・十訓抄「管弦の名手、博雅三位」 ・枕草子「がっかりさせられるもの」 ・徒然草「人はかたち・ありさまの」	8	【思】「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的・意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開・表現の特色について評価している。また、古典の作品に関連のある事柄について様々な資料を調べ、その成果を発表し、報告書などにまとめている。
2	㉚単元テスト ・読解、文法、文学史	1	【主】日本漢文に興味をもち、作者のものの見方、考え方がどのように表現されているかを読みとろうとしている。
3	㉛ ～ ㉞（漢文） ・孟子「五十歩百歩」 ・十八史略「鶏口牛後」 ・三国志「曹沖の機転」 ・韓非子「殷の法律」 ・戦国策「江乙の説得」	1	⑳ ～ ㉔ 【知】古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。
3	㉟単元テスト ・読解、文法、文学史	7	【思】「読むこと」において、古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりしている。
	㊱～まぎらわしい語の識別 マスターノート	10	【主】作品に興味をもち、現代までの日本の文化文学に与えた影響を知ろうとしている。
		1	⑳ ～ ㉔ 【知】詩文学の内容を的確に捉え、作品の文学的背景を理解している。
		7	【思】作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈している。
			【主】和歌・漢詩に興味をもち、作者やその時代の背景に関心をもち、自分なりの解釈を行おうとしている。
			㊲実践演習

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
2年次	国語	発展現代文	B	必履修・必修・ 選択	2
科目の 目 標	文章を的確に理解し、適切に論述する能力を高める。 ①知識・及び技能 文章の読解、論述の表現に必要な国語の知識・技能を身に付けるようにする。 ②思考、判断、表現 論理的に文章を読解し、求められた条件で適切に論述する力を身に付けるようにする。 ③主体的に学習に取り組む態度 自身の知識・技能、思考、判断、表現の各領域の達成度について粘り強く向上させようと努め、自らの学力向上につなげる態度を身に付けるようにする。				
教科書 (出版社)		副教材 (出版社)	新装版 ニューグレード現代文 評論Ⅲ (桐原書店)		
留意点				開 講 予定人数	

2 評価の方法

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	単元テストや小テスト等で評価します。
思考・判断・表現	単元テストや授業内の課題、提出物等で評価します。
主体的に学習に取り組む態度	提出課題等で評価します。

(2) 評価方法

観 点 評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
単元テスト・小テスト	◎	◎	○
提出課題	○	○	◎

3 履修上および学習上の注意

・タブレットを使用することがあるので、毎時間用意しておくようにしてください。

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	○オリエンテーション① （使用教材、成績の付き方） （Chromebook の使い方）	1	
5	○評論における読解について	読8	【知】 評論の重要語句や接続詞等の基礎文法を理解することができる。 【思】 段落構成や文と文のつながりを意識して読むことができる。 【主】 自身の得意不得意を分析し次回の読解に反映しようとしている。
6	○小説における読解について	読8	【知】 慣用表現や文中の言動の指す意味を理解することができる。 【思】 心情の変化のきっかけとなる言動を押さえ、場面や登場人物の心情を把握することができる。 【主】 自身の得意不得意を分析し次回の読解に反映しようとしている。
7	○評論における論述について	読5 書2	【知】 論述に必要な知識・技能を理解することができる。 【思】 本文から必要な要素を見つけ、求められた条件通りに論述することができる。 【主】 自身の得意不得意を分析し次回の論述に反映しようとしている。
8	○小説における論述について	読5 書2	【知】 慣用表現や文中の言動の指す意味を理解することができる。 【思】 心情の変化のきっかけとなる言動や場面の説明を押さえ、求められた条件通りに論述することができる。 【主】 自身の得意不得意を分析し次回の論述に反映しようとしている。
9	○評論における読解・論述について	読8 書2	【知】 評論の重要語句や抽象と具体の考えを理解することができる。 【思】 本文から抽象的なキーワードを見つけ、マークすることができる。 本文から必要な要素を見つけ、求められた条件通りに論述することができる。 【主】 自身の得意不得意を分析し次回に反映しようとしている。
10	○小説における読解・論述について	読8 書2	【知】 慣用表現や文中の言動の指す意味を理解することができる。 【思】 心情の変化のきっかけとなる言動や場面の説明を押さえ、求められた条件通りに論述することができる。 【主】 自身の得意不得意を分析し次回に反映しようとしている。
11	○評論における読解・論述について	読8 書2	【知】 評論の重要語句や本文要約の考え方を理解することができる。 【思】 本文のテーマ・キーワードから文章を要約し、論述することができる。 【主】 自身の得意不得意を分析し次回に反映しようとしている。
12	○小説における読解・論述について	読7 書2	【知】 慣用表現や文中の言動の指す意味を理解することができる。 【思】 本文全体の話の流れを把握し、求められた条件通りに論述することができる。 【主】 自身の得意不得意を分析し次回に反映しようとしている。
1			
2			
3			
		70	

※発展現代文は「思考、判断、表現」の3領域のうち、「読むこと」、「書くこと」を評価します。

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
2年次	数 学	数学 B	C	必履修・必修・ 選択	2
科目の 目 標	数列、統計的な推測について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。				
教科書 (出版社)	高等学校 数学 B (数研出版)	副教材 (出版社)	教科書傍用 4プロセス 数学 B (数研出版)		
留意点	数学 I・II・A の復習を行うこと。			開 講 予定人数	最大 80 名

2 評価

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	数列、統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解し、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につけるようにする。
思考・判断・表現	離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力を養う。
主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

(2) 評価方法

観 点 評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
定期考査・単元テスト 小テスト	◎	◎	
ワークシート 授業中の発言・発表	○	◎	○
授業への取組姿勢 週末課題 長期休業中の課題	○	○	◎

3 履修上および学習上の注意

<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別クラス展開を行う。 ・「教科書傍用 4プロセス 数学B」を、家庭学習（予習・復習）で活用する。 ・副教材を課題として提示するので、計画的に学習を進めること。

4 年間指導計画（評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	第1章 数列	12	【知】 等差数列と等比数列について理解し、それらの一般項や和を求めることができる。 【思】 事象から離散的な変化を見だし、それらの変化の規則性を数学的に表現し考察することができる。 【主】 粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断しようとしている。
5	第1節 等差数列と等比数列		
	【前期中間考査】	1	
6	第2節 いろいろな数列	14	【知】 いろいろな数列の一般項や和を求める方法について理解することができる。漸化式について理解し、事象の変化を漸化式で表したり、簡単な漸化式で表された数列の一般項を求めたりすることができる。また、数学的帰納法について理解することができる。 【思】 事象の再帰的な関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、数列の考えを問題解決に活用することができる。また、自然数の性質などを見だし、それらについて数学的帰納法を用いて証明するとともに、他の証明方法と比較し多面的に考察することができる。 【主】 粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断しようとしている。
7			
8			
	【前期期末考査】	1	
9	第2章 確率分布と統計的な推測	18	【知】 標本調査の考え方について理解を深めることができる。確率変数と確率分布について理解することができる。二項分布と正規分布の性質や特徴について理解することができる。 【思】 確率分布や標本分布の特徴を、確率変数の平均、分散、標準偏差などを用いて考察することができる。 【主】 粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断しようとしている。
10	第1節 確率分布		
11			
	【後期中間考査】	1	
12	第2節 統計的な推測	14	【知】 正規分布を用いた区間推定及び仮説検定の方法を理解することができる。 【思】 目的に応じて標本調査を設計し、収集したデータを基にコンピュータなどの情報機器を用いて処理するなどして、母集団の特徴や傾向を推測し判断するとともに、標本調査の方法や結果を批判的に考察することができる。 【主】 粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断しようとしている。
1			
2			
	【後期期末考査】	1	
3		8	

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
2年次	英語	Basic English	C	必履修・必修・ 選択	2
科目の目標	<p>1 知識及び技能 英語を聞いたり読んだりするために必要な単語熟語、英文の読み方、聞き方などを理解できる。聞いたり読んだりしたことを踏まえ、自らの考えを発信、表現するために必要な知識及び技能を修得する。</p> <p>2 思考、判断、表現 英語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づいて自らの考えを発信、表現する能力を養う。</p> <p>3 主体的に学習に取り組む態度 英語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づいて自らの考えを発信、表現しようとする態度を養う。</p>				
教科書 (出版社)		副教材 (出版社)	Transfer 英語総合問題演習コースB [4th Edition] (桐原書店) Mileage Reader 2 (いいずな書店)		
留意点				開講 予定人数	42

2 評価

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	英語を聞いたり読んだりするために必要な単語熟語、英文の読み方、聞き方などを理解できる。聞いたり読んだりしたことを踏まえ、自らの考えを発信、表現するために必要な知識及び技能を修得することができる。
思考・判断・表現	英語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づいて自らの考えを発信、表現できる。
主体的に学習に取り組む態度	英語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づいて自らの考えを発信、表現しようとする態度を養うことができる。

(2) 評価方法

観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法			
小テスト	○		
ワークシート	○	○	
学習観察	○	○	◎
パフォーマンステスト	○	○	○
課題提出	○	○	○

3 履修上および学習上の注意

言語活動に取り組む態度を持ち、異国の文化を学んでください。

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	○オリエンテーション （使用教材や授業の進め方） Mileage Reader	1	
	Lesson 1	1	
	Lesson 2	1	
	Lesson 3	1	
	Lesson 4	1	
	Lesson 5	1	
5	Lesson 6	1	
	Lesson 7	1	
	Lesson 8	1	
	Lesson 9	1	
	Lesson 10	1	
	Lesson 11	1	
	【前期中間考査】	1	
6	Lesson 12	2	
	Lesson 13	2	
	Lesson 14	2	
7	Lesson 15	2	
	Lesson 16	2	
	Lesson 17	2	
8	Lesson 18	2	
9	【前期期末考査】	1	
	Lesson 19	2	
	Lesson 20	2	
	Lesson 21	2	
	Lesson 22	2	(知) 本文の単語熟語を理解し、英文内容を理解できる。
	Lesson 23	2	(思) 学んだことや経験したことに基づいて自らの考えを発信、表現できる。
			(態) 英語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする。学んだことや経験したことに基づいて自らの考えを発信、表現しようとする態度を養うことができる。
10	transfer A		
	Unit 1	2	
	Unit 2	2	
	Unit 3	2	
11	Unit 4	2	
	Unit 5	2	
	【後期中間考査】	1	
	Unit 6	2	
12	Unit 7	2	
	Unit 8	2	
	Unit 9	2	
1	Unit 10	2	
	Unit 11	2	
2	Unit 12	2	
	【後期期末考査】	1	
	Unit 13	2	
3	Unit 14	2	
	Unit 15	2	

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
2年次	数学	基礎数学 α	C	必履修・必修・ 選択	2
科目の目標	数量についての基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、身の回りで活用されている数学的事例などについて学ぶことを通して、事象を数学的に考察する能力を培い、数学的論拠に基づいて判断する態度を養う。				
教科書(出版社)	なし	副教材(出版社)	なし		
留意点	公務員志望者向けの講座です。			開講 予定人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能や推論の方法を身につけている。
思考・判断・表現	事象を数学的に考察し表現したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を身につけている。
主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度を身につけている。

(2) 評価方法

観 点 評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
定期考査・単元テスト 小テスト	◎	◎	
ワークシート 授業中の発言・発表	○	◎	○
授業への取組姿勢 週末課題 長期休業中の課題	○	○	◎

3 履修上および学習上の注意

特になし

4 年間指導計画（評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4 5	○計算力について 正負の数・公倍数・公約数 単項式と多項式・展開と因数分解 平方根・方程式	19	【知】これまでの学習内容を振り返りながら、基本となる計算力を身につけることができる。 【思】一つの文字に置き換えるなど、複雑な式を簡単な式に帰着させ、式の見方を豊かにすることができる。 【主】粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断しようとしている。
6	【前期中間考査】	1	
7	○論理力について 集合と命題・数的推理・判断推理 図表の読み取り	19	【知】基本的な論理のルールを学び、実際の問題で活用することができる。 【思】論理のルールを基に、問題解決の過程や結果について批判的に考察し、判断する力を養う。 【主】粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断しようとしている。
8			
9	【前期期末考査】	1	
10 11	○身の回りの数学 速さと時間と距離・濃度 定価と原価と利益・比と割合 場合の数と確率・n進法・ 不等式と領域	19	【知】これまでに学習した数学の内容が、どのように活用されているか理解している。 【思】SPI3や公務員試験の問題について研究し、論理的思考力や判断力を向上させることができる。 【主】粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断しようとしている。
12	【後期中間考査】	1	
1 2	○身の回りの数学 場合の数と確率・n進法 不等式と領域	9	【知】これまでに学習した数学の内容が、どのように活用されているか理解している。 【思】SPI3や公務員試験の問題について研究し、論理的思考力や判断力を向上させることができる。 【主】粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断しようとしている。
3	【後期期末考査】	1	